

「四国防災八十八話」を讀んで、
肱東中学校一年河内圭介
僕が、「四国防災八十八話」を讀んで一番
心に残った話は、「避難用の舟」という話で
す。この話は、昔、まだ肱川に十分な堤防も
なく、洪水の時、小舟を使って避難していた
という話です。僕は、すごいなと思いました。
それはなぜかというところ、洪水に備えて舟を準
備し、命や財産を守るようによく知恵をはた
らかせたなど思ったからです。僕が生まれた
年（平成七年）も、大洲は大洪水になりました
た。その時は、東大洲のあたりも水につかり
救命ボートなどを使い、住民を救助したそう
です。最近は、堤防の整備も進んできたけれ
ど、昔の洪水はもつと規模も大きく、大変な
被害をもたらしただろうし、その当時の人々
は、とても苦労しただろうと思えます。
僕の家は、山のほうにあるので、洪水の被
害にあったことがありません。また、その他
の被害への備えも十分ではありません。例え

、。

